

幼児期における受動喫煙の 口腔への影響について

岡山大学行動小児歯科

小石 剛

目的



これまで受動喫煙による健康被害については多くの報告がなされている。

歯科領域においても、むし歯・歯周病・歯肉着色などに関連性が知られている。

しかし、幼児期における受動喫煙の口腔内の影響についての報告はみあたらない。そこで今回、受動喫煙による幼稚園児の歯肉着色について調査した。

対象及び方法

岡山市内某幼稚園

3-6歳幼稚園児 85名

- * 歯科健診
- * 歯肉着色診査
- * 園児に口頭にて質問



歯肉着色のスコアー



Class 1



Class 2



Class 3



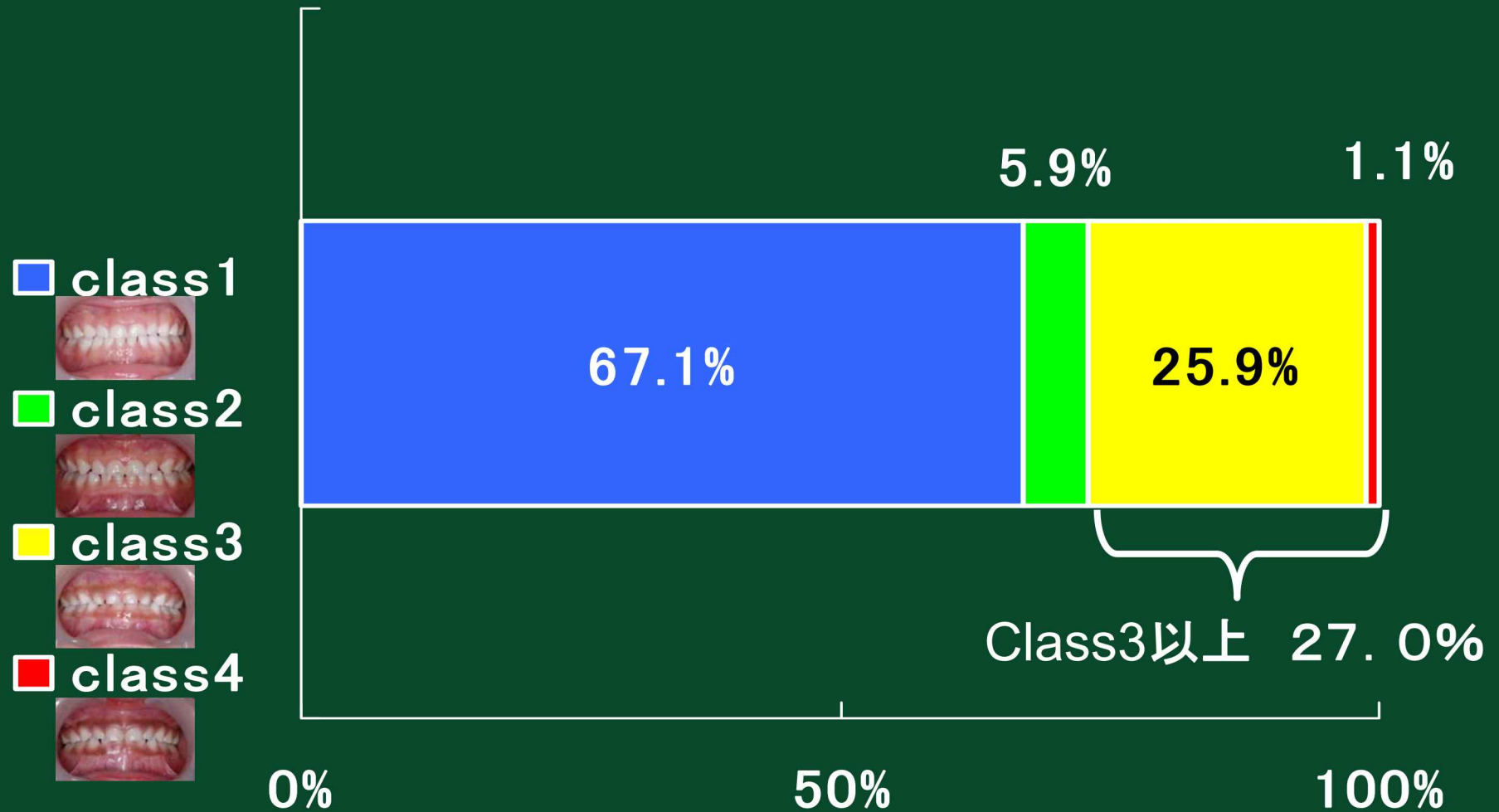
Class 4

園児への質問

「お父さんかお母さん、
あるいは、おうちにタ
バコを吸う人はいます
か？」

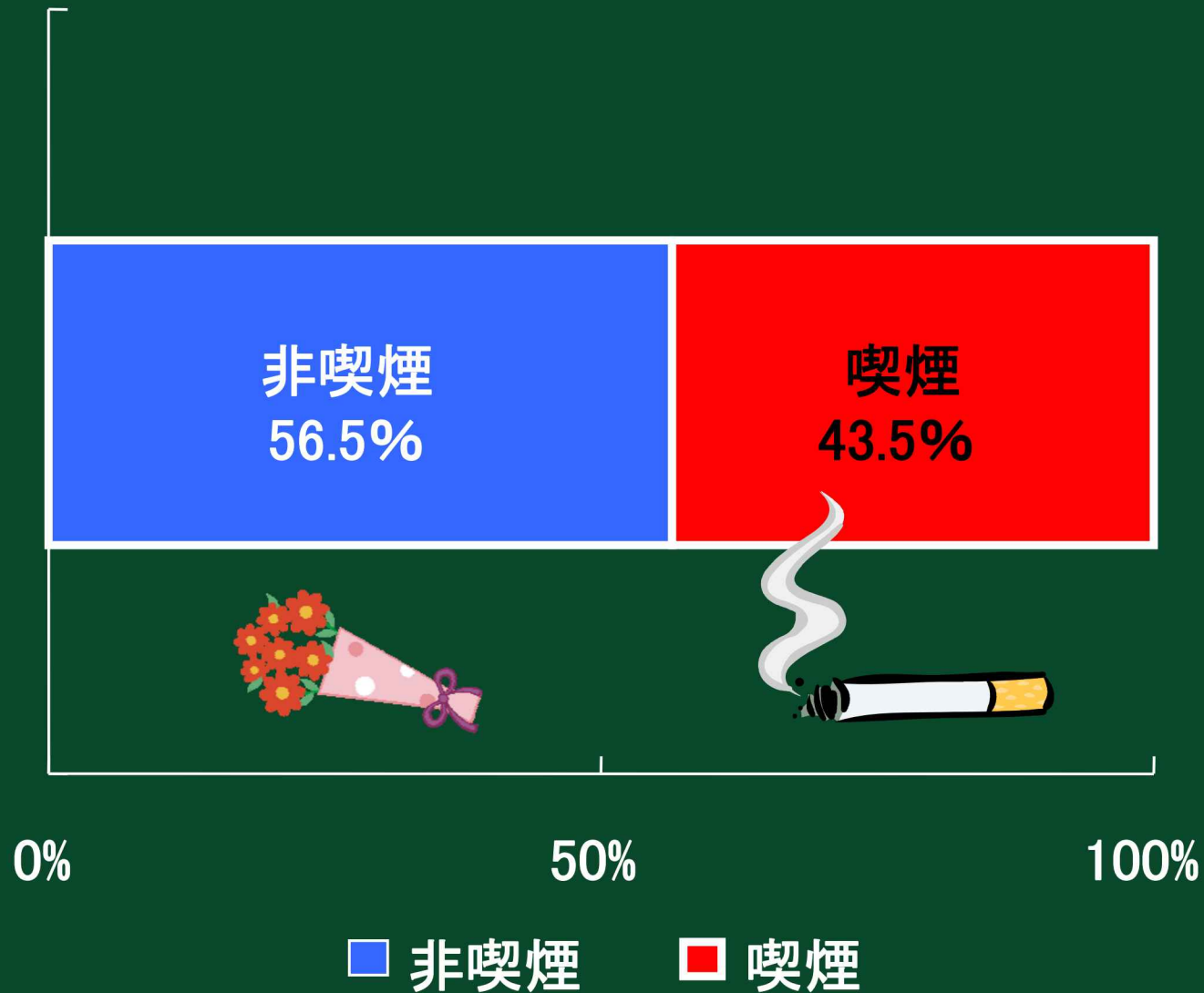


歯肉着色の割合

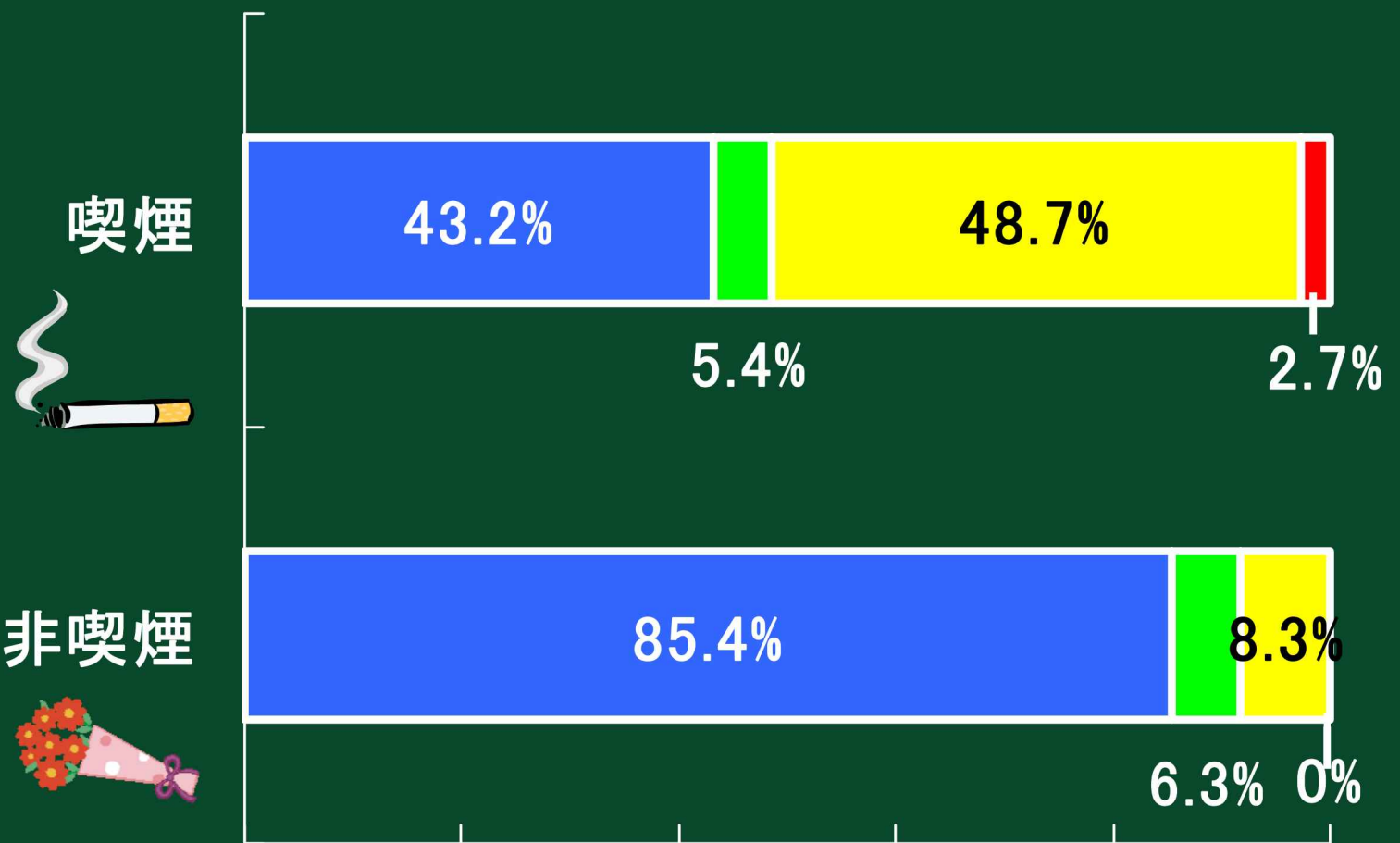




同居者の喫煙の割合



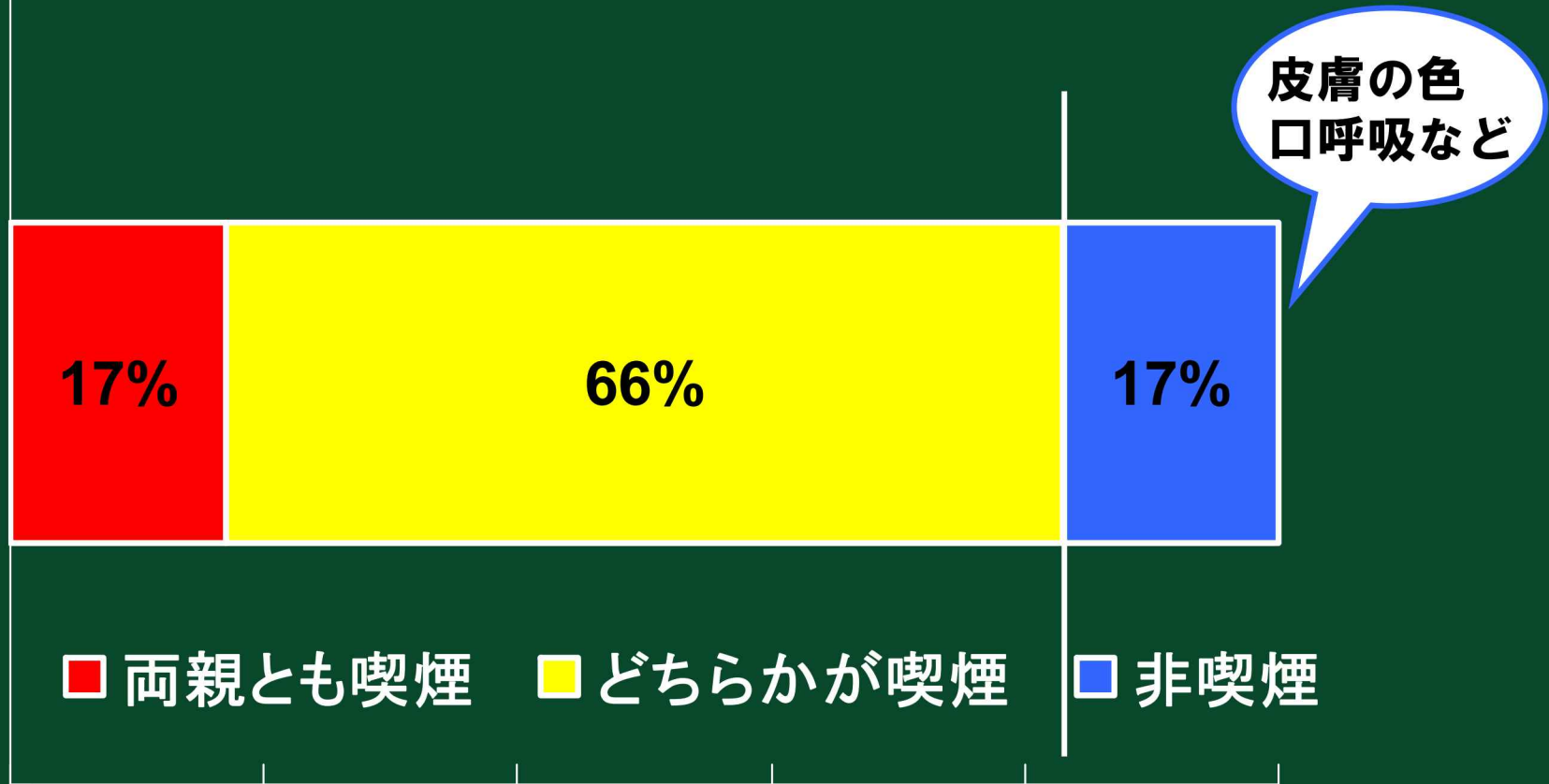
同居者の喫煙・非喫煙と歯肉の着色



■ class1 ■ class2 ■ class3 ■ class4 χ^2 検定 $p < 0.001$



歯肉着色と同居者の喫煙の有無



0% 20% 40% 60% 80% 100%

着色スコアClass3以上の者 n=18



同居者の喫煙とむし歯の数



まとめ

* 同居者に喫煙者がいない場合、約15%の幼稚園児にしか歯肉の着色がないのに対し、喫煙者が認められると実に56%も着色が認められた。

* むし歯との関係は明確ではなかったが、受動喫煙によりむし歯のリスクが高くなる可能性は十分考えられ、今後の検討課題としたい。



歯肉メラニン色素沈着のメカニズム

歯肉メラニン色素産生細胞

